

ふるさと探訪

県指定重要文化財

木造地藏菩薩坐像 一軀



本尊地藏菩薩は、寄木造り彩色で、玉眼嵌入、左手に宝珠、右手に錫杖をもち六地藏中の大定慈悲地藏の形に造られている。面相は髮際線が額中央で下方にカーブし、切長の伏せ眼、きりつと結んだ口唇、張りのある紐耳等に鎌倉時代の名残りをとどめるが、特徴的なのは、裳裾先が反転して垂下する垂下様式になっていることと、衣全面に大きな菊花の土紋が見られ珍しい。土紋は粘土を花や葉の雌型に入れて厚手に作った文様である。

このような繁雑な彫刻様式は、後期宋朝の影響を受けた鎌倉末期から、室町初期にかけての特色である。

本像は、多分鎌倉の極楽寺から贈られたものであろうが、面貌や作りは円覚寺塔頭伝宗庵の地藏菩薩坐像（鎌倉末期）南北朝時代・国指定重要文化財）に類似する。

像高 六十九センチメートル
裾先まで 八十七センチメートル

所有者 長福寺

所在地 いわき市小川町下小川上ノ台二〇番地